

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
図書館
管理係

事務事業名	図書館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに	4	質の高い教育をみんなに	11	住み続けられるまちづくりを			

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館利用者の安全と衛生を確保し、便利で快適に図書館を利用できるようにする。				
内容	施設の修繕及び保守点検並びに館内の清掃、衛生管理を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	冷暖房空調保守点検回数	図書館が委託する冷房保守点検の回数	目標	2	2	2	回
		実績	2	2			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	館内外からの衛生・美化に関する苦情	館内・敷地内の衛生・美化に関する市民からの苦情を受けた件数	目標	0	0	0	回
		実績	0	0			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	29,298	95,030	29,765	35,517	34,200	34,200		
事業経費	25,498	91,230	25,965	31,717	30,400	30,400		
特定財源	198	48,346	90	150	150	150		
従事常勤職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		
従事非常勤職員数								
概算人件費	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	施設全体の経年劣化が進んでいるため、定期的な施設点検を行い、維持管理に取組む必要がある。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	なくてはならない事業のため。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	開館から19年以上が経過し、経年劣化による施設の修繕が増える傾向にあるので、計画的な設備の更新が必要である。公共施設等マネジメント実施計画に沿って長寿命化を図り、施設の維持補修を実施する。
今後の取組み	適正な施設の点検及び修繕を行うことにより、安全と衛生の質を落とさず、快適な空間として図書館を利用できるようにする。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	映画会開催事業						教育部			
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに								管理係

1. 事業の概要(Plan)

目的	映画会を開催することで図書館に来館する機会を作り、来館者の増につなげる。				
内容	大人対象の映画会である図書館映画会及び子ども映画会を開催する。ポスターやお知らせ版にて周知する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	映画会開催回数	年間に図書館映画会及び子ども映画会を開催した回数	目標	24	24	24	回	
		実績	0	10				
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位	
	映画会入場者数	図書館映画会及び子ども映画会入場者数	目標	360	360	360	人	
		実績	0	84				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額		
総事業費	1,961	1,955	2,563	1,837	1,980	1,980		
事業経費	741	735	1,343	617	760	760		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10		
従事非常勤職員数	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		
概算人件費	1,220	1,220	1,220	1,220	1,220	1,220		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	多くの市民に図書館に親しんでもらい、来館者を増やすことにより、利用率が高められる。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	イベントの委託は可能だが、著作権の関係もあり市が推進すべき
	有効性	指標の実績	達成できなかった	新型コロナウイルス感染防止の観点から開催回数が制限された。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果不十分	コロナ渦のため開催回数及び入場者が減少した。	
	手段の妥当性	妥当	図書館の利用率が高められる。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	著作権や予算の関係で上映作品に限られる中で、多くの入場者を望める作品を選定していく必要がある。また、入場者が固定してきているので、新たな入場者の確保につなげられるようなPR方法や作品の選定が課題である。
今後の取組み	市民の興味を引く作品を選定して映画会を開催することで、図書館そのものの利用者増に繋げていく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	資料選定購入事業						教育部			
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに								サービス係

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に応えるため資料を選定購入し利用に供することにより、教育文化の向上を図る。				
内容	下妻市立図書館資料収集方針及び下妻市立図書館資料収集計画(年次作成)に基づき資料を選定購入し、市民の利用に供する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	新刊案内、展示会等による選定回数	新刊案内等による選定書での選定と展示会等による見計らいでの選定回数	目標	52	50	50	回
		実績	51	50			

  

成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	図書館資料点数	図書館に蔵書されている資料点数	目標	215,500	215,500	218,000	点
		実績	211,143	215,145			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額		
総事業費	19,368	19,358	22,592	19,358	19,358	19,358		
事業経費	10,048	10,038	13,272	10,038	10,038	10,038		
特定財源	125	110	3,341	106	106	106		
従事常勤職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		
従事非常勤職員数	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40		
概算人件費	9,320	9,320	9,320	9,320	9,320	9,320		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化に関わらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを提供する必要がある
	有効性	指標の実績	達成できた	ほぼ目標通り提供することができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民の教養、調査研究に応えるために必要な資料を揃える必要がある。
今後の取組み	新刊案内や展示会を利用し、資料の幅広い情報を得るとともに、市民からのリクエストにより利用者ニーズを把握して、より良い資料を選定購入する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
図書館
サービス係

事務事業名	蔵書管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに							

1. 事業の概要(Plan)

目的	計画的に蔵書管理をし、利用者からの要求に対し適切な資料提供をすることにより教育と文化の向上を図る				
内容	利用者への適切な資料提供のため、計画的に蔵書点検、書架整理、修理、装備をし蔵書管理をする				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	蔵書数	蔵書点検時での蔵書数	目標	212,000	212,000	212,000	点
		実績	211,143	215,145			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	蔵書点検対象点数	年1回蔵書目録と蔵書を照合し、蔵書の現状や紛失資料の把握を行う蔵書点数	目標	201,000	211,000	211,000	
		実績	201,546	211,916			

予算科目	区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	5図書館費
------	----	------	---	-------	---	--------	---	-------

事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額
総事業費	7,723	8,397	8,397	8,397	8,397	6,640
事業経費	1,083	1,757	1,757	1,757	1,757	
特定財源	0	0	0	0	0	0
従事常勤職員数	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45
従事非常勤職員数	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40
概算人件費	6,640	6,640	6,640	6,640	6,640	6,640

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	図書館運営の根幹をなすものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスが必要である
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標をほぼ達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率が良い	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	蔵書数が増えるにしたがって蔵書点検対象点数も増えていき、それだけ点検作業に時間がかかるようになるのを決められた期間内で蔵書点検作業を終了させることが課題である。
今後の取組み	書架整理・修理については、図書館ボランティアの協力を得ながら実施していく。紛失資料対策としては、BDS(持出防止システム)を利用して、紛失防止を図っていく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	図書館利用カウンターサービス事業						教育部			
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに								サービス係

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に応えるため資料の貸出及び相談に応じ、教育と文化の向上を図る				
内容	利用者へ適切で迅速に資料提供を行えるよう、図書等の貸出・予約・相互貸借・レファレンスを行う				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	利用者数	図書館への来館者数	目標	100,000	100,000	100,000	人
		実績	87,056	103,057			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	図書等の貸出点数	図書等(DVD・CD等含む)貸出点数	目標	200,000	200,000	200,000	点
		実績	165,555	196,030			

予算科目	区分	一般会計	款	10教育費	項	5社会教育費	目	5図書館費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	15,100	16,297	15,376	15,376	15,376	15,376		
事業経費	7,300	8,497	7,576	7,576	7,576	7,576		
特定財源	36	21	26	30	30	30		
従事常勤職員数	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30		
従事非常勤職員数	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40		
概算人件費	7,800	7,800	7,800	7,800	7,800	7,800		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化に関わらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを提供する必要がある
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	コロナ禍のなか、まずまずの健闘である
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標をほぼ達成している
	手段の妥当性	妥当		専門知識が必要かつ効率が良い
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	図書等の貸出率を上げることも大切だが、貸出不可の辞書辞典類や利用の少ない郷土資料、大活字本などを利用者のニーズに配慮し揃えることが課題であるとともに、コロナ禍の中、利用者にとって利用しやすいサービスを整えることが大切である。
今後の取組み	コロナ禍の中、利用者が利用しやすいサービスを考えていくとともに、現在図書館を利用していない市民の方、これから図書館を利用するであろう子どもたちに図書館が少しでも利用しやすくなるような方策を考えていく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

教育部
図書館
サービス係

事務事業名	特集展示サービス事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに							

1. 事業の概要(Plan)

目的	多数ある所蔵図書の中からテーマ別におすすめの図書を特集し、展示するなどしてPRする。				
内容	より多くの利用者に借りていただけるようなテーマを選んで、こまめに展示を切り替える。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	特集企画の回数	特集テーマの企画回数	目標	12	12	12	回
		実績	12	12			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	展示架の切り替え回数	展示架を何回切り替えたか	目標	12	12	12	回
		実績	12	12			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
------	----	------	---	--------	---	---------	---	--------

事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額
総事業費	2,270	2,270	2,270	2,270	2,270	2,270
事業経費	50	50	50	50	50	50
特定財源	0	0	0	0	0	0
従事常勤職員数	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
従事非常勤職員数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
概算人件費	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220	2,220

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	話題の図書を利用者にわかってもらうには必要性は高い。
		対象の適切性	適切	図書館利用者全体に知らせたい。
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門的な知識を必要とするため、直営が望ましい。
	有効性	指標の実績	達成できた	月に1回の変更を定期的実施している。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	消耗品程度の支出で収まっている。
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標を達成できた。
	手段の妥当性	妥当		図書館の利用率が高められる。
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	展示架の切り替えは図書館利用者に対してイメージを刷新するよい催事である。限られたスペースを最大限に生かして展示を行っている。利用者への増加に期待したい。
今後の取組み	親しみやすい、季節に合ったテーマを設定して、展示をすることにより利用の促進を図っていききたい。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	図書館協議会運営						教育部			
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館	図書館
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに								管理係

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館法第13条の規定に基づき、館長の諮問に応ずるとともに図書館サービス等について館長に対して意見を述べる。				
内容	委嘱した10名の委員からなる図書館協議会を開催する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	開催回数	1年間に開催した図書館協議会の回数	目標	2	2	2	回
		実績	2	2			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	協議会出席者	図書館協議会に参加した委員の延べ人数	目標	20	20	20	人
		実績	書面開催	書面開催			

予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
------	----	------	---	--------	---	---------	---	--------

事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額
総事業費	1,451	1,403	1,403	1,491	1,493	1,493
事業経費	83	35	35	123	125	125
特定財源	0	0	0	0	0	0
従事常勤職員数	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18
従事非常勤職員数						
概算人件費	1,368	1,368	1,368	1,368	1,368	1,368

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	図書館運営の根幹をなすものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標をほぼ達成できた
	手段の妥当性	妥当		なくてはならない事業のため
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年度、令和3年度は書面開催となり、活発な意見交換ができなかった。情勢を見ながら適切な時期に協議会を開催し、多くの意見をいただくことが課題である。
今後の取組み	年2回のペースで協議会を開催し、図書館運営に対して委員からの提言を取り入れ、安全で快適な学習空間を利用者に提供できるように努める。